

保護者の皆様

2020年8月3日

園だより虹 臨時号



暑中お見舞い申し上げます



明星幼稚園

園長 渡邊 智恵子

今週から夏休みに入りました。

本来ならば15日に終業式を迎え、年長組は翌日から一泊二日で八ヶ岳にある明星山荘にお泊り保育に出かけているはずでした。

何もかもが自粛、変更、中止となり、東京都の感染者数は減る兆しが見えず、不安は大きくなるばかりです。気持ちは落ち込みがちで、心の底から楽しいと感じることが少なくなってきてはいませんか。こんな時だからこそ、私自身は園児たちの笑顔や仕草などかわいらしい姿に自然と笑顔になれることが一番の幸せと感じます。自身の子育てが終わった今、この仕事の役得と感じています。(あとは他人の迷惑にならないよう注意しながら、通勤の車内で昭和歌謡を歌って気分転換をしています。家の中で歌っていると、新入社員テレワークの息子に、もう少し新しい歌にしてよ、と言われます。。)

さて、7月31日の終業式には今年度初めてクラス全員が集まりました。

年中少組は園児机の中央にパーテーションを配置し、年長組は二人掛けの机を前向きにして座りました。そして着席したまま全館放送で私の話を流しました。

年少の担任からは「とてもよく聞くことができている意外でした。」と感心する声がありました。6月から始まった幼稚園生活、しかも隔日登園でしたが、集団での生活が身に付き始めているとほっといたしました。

私が話の中で一つだけ子どもたちに宿題を出しました。

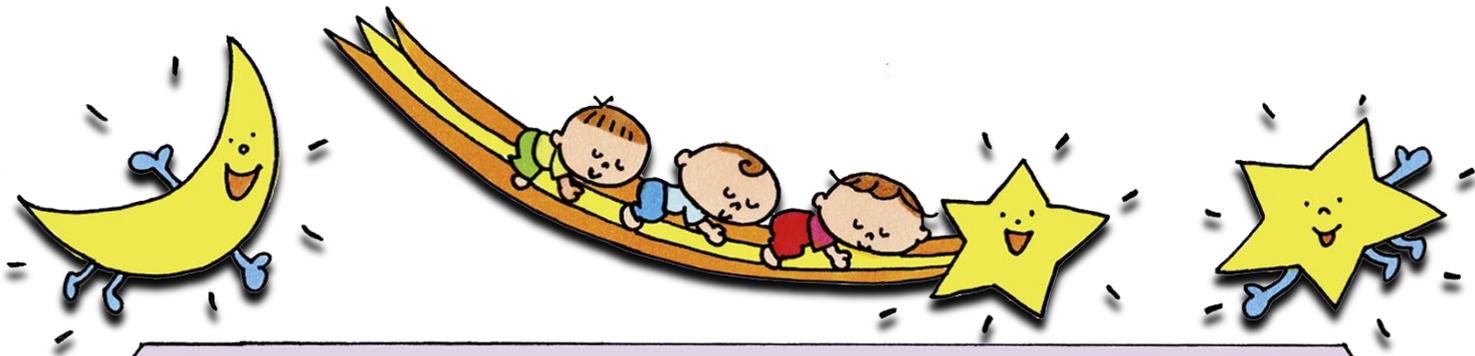
それは「この夏休み、お家でも何かする時に、良い事なのか、悪い事なのか自分で考えてみましょう。」ということです。

「例えばアイスクャンディーを1本食べて、もう1本食べたいと思っても、お母さんが1本だけよと言いましたよ。どうしてもあと1本食べたい！どうする？」

あるいは「お母さんがもう寝る時間ですよといったけど、もっとゲームしたいなあと思った時、どうする？」などと話しました。

実際その場面になる前に、こうした話を大人から聞き、自分で考えてみると、そこではほとんどの子どもが、いわゆる「正解」を持っています。わかっているのです。





しかしいざその状況になると、まだまだ欲求に勝てないのが幼児、当たり前です。大人でもそういった場面はいくらでもあるのですから。

「一回でも良い事、悪いことを自分で考えて、自分で我慢できたよ、ということがあったら園長先生に教えてくださいね。」と話しました。

保護者の方もご家庭で【始まる前に一緒に考えてみる】ことをお勧めします。

実際の場面になっての大人からの急な決め事に対して、子どもの欲求が勝っているとき、子どもはなかなか納得できずに、駄々をこねたり、泣きわめいたりすることがあります。

そうなった時、普通親は2通りの対処方法のうちどちらかの対応をとるでしょう。

一つは[この子のわがママをなんとかしないとこの子のためにならない、何とかせねば]と、泣いてもなんでも妥協しない。もう一つは反対に[早くなだめないと他人に迷惑が掛かるし恥ずかしい]と親が妥協して子の思うままにしてしまう。

この時【始まる前に一緒に考えてみていたら】どうなっていたでしょう。もしかしたら子供の方から「始めに決めたから我慢する」と言ってくるかもしれませんし、言わなくともそう行動をしているかもしれません。

たとえできなかったとしても、泣きながら葛藤する我が子に寄り添い、あとから一緒にできなかったことを残念がって、次のチャンスを与えてあげればよいのです。

そしてうまくいったらしっかり認めてあげる。「始めに決めた通りできたね。ありがとう。」と伝えてください。

ここでポイントは「ありがとう」です。「いい子ね。」「すごいね。」もよいのですが、「ありがとう」を我が子に伝えるチャンスです。「ありがとう」「ごめんなさい」が言える子に育ってほしいと願うならば、まずは大人からどうぞ。

幼稚園の年齢になると子どもたちは様々な事を自分で考えられるようになってきます。決してそれが正解でないにせよ、自分で考える力を養うことはとても大切です。間違った答えの受け取り方によっても思考が停止してしまう子どももいます。自信がなくなってしまうのです。誤りを非難がましくなく伝えることが必要になってきます。

兄弟や大人の家族と一緒に意見を出し合い、一緒に考え、自分の考えも受け入れてもらえる経験は自己肯定感につながります。さらに自分が認めてもらった経験は、他者を認めることができることにつながります。

親は正解を持っているので、忙しいとつい始めから正論を子どもにぶつけ、彼らの思考を止めてはいないでしょうか。

自分の力で学ぶ子どもを育てる(勉強だけではなく、スポーツも人間関係もすべて)には、ご家族でその基盤を作ることも重要と考えます。

今年は短い夏休み期間ですが、お出かけもままならないので、お子さんと「よく話す」のはいかがでしょうか。